

人口ビジョン

人口の減少

- 将来推計人口
181,169人(2010)→106,088人(2040)
- 人口減の主な要因(現時点)
【社会減】
若年層(進学・就職期)の転出超過
【自然減】
出生率の低下⇒1.35(2013)
女性(20~39歳)の減少
- 自然増減よりも社会増減の影響度が大きい

課題と影響

- 若年層流出による次世代人口の縮小
- 若年女性人口減⇒少子化の加速
- 生産年齢人口減⇒生産力の低下
- 人口減による消費活動の縮小⇒雇用の縮小⇒経済活動の縮小⇒域際収支の縮小
- 都市機能(公共交通、医療、住環境等)の縮小・悪化など

将来の展望

- 合計特殊出生率
1.35(2013)→2.07(2040)
- 純移動率
転出:10%減・転入:10%増
20~39歳の年代の移動率20%増
- 目標とする人口
13万8千人(2040)・12万6千人(2060)
- 目指すべき将来の方向
特に「社会減」に歯止めをかけ、親になる世代に釧路に定着してもらうことが重要

人口減少の分析
・推計・将来展望

総合戦略

目指す都市像 **未来への「希望」輝く ひがし北海道の拠点・くしろ**

最優先課題

☆「域内循環」と「外から稼ぐ」取組の推進などにより、力強い経済基盤を構築し雇用の創出などを図り、親になる世代を確保して急激な人口減少に歯止めをかけます。

重点戦略

☆「『わかもの』の希望がかなうまち・くしろ」を目指します

・地域の「しごと」づくりと雇用機会の拡大、学生の卒業後の定着促進、若者の就労支援や子どもの職業観の育成、子育て世代への支援や子育て環境の充実、若者主体の会議設立 等

☆「『女性』の希望がかなうまち・くしろ」を目指します

・女性が活躍できる環境づくりや女性の就労支援、妊娠・出産に係る負担軽減 等

☆「すべての人の『住み続けたい』という希望がかなうまち・くしろ」を目指します

・医療・介護・福祉等のサービス充実に向けた環境整備、自然災害に備えた防災体制の強化、コンパクトなまちづくりとまちなかの活性化 等

☆「『来たい・住みたい』と思えるまち・くしろ」を目指します

・地域経済再生の柱としての「世界一級の観光地域づくり」、長期滞在事業の一層の推進、二地域居住や移住の促進 等

5年間に取り組む
最優先課題・重点戦略

分野別 基本目標と施策

基本目標1 地域経済のプラス成長と雇用の創出を図る

- ① 釧路らしさを生み出す農林水産業の成長産業化
- ② 釧路の「食」の高付加価値化と販路拡大
- ③ 釧路の自然文化を活かした世界一級の観光地域づくり
- ④ 中小企業・小規模事業者の競争力の強化
- ⑤ 地域特性を活かした企業誘致
- ⑥ 地域に根ざした石炭産業の振興
- ⑦ 地域を支える人材の確保

基本目標2 釧路らしさを活かして人を呼び込み・呼び戻す

- ① 釧路の強みを活かした交流人口の拡大
- ② 釧路の強みを活かした移住・定住の促進

基本目標3 子どもを生み育てたいという希望をかなえる

- ① 結婚や妊娠を支える環境づくり
- ② 安心して子どもを生み育てられる環境づくり
- ③ 子どもの成長を支える環境づくり
- ④ 配慮を要する子どもと家庭を支える環境づくり

基本目標4 安心な暮らしをつくる

- ① 地域生活を支える福祉支援対策
- ② 医療・保健・福祉サービスの充実
- ③ 安心な暮らしを守る人材づくり
- ④ 地域コミュニティの強化
- ⑤ 防災・防犯など暮らしの安全・安心確保対策等の充実

基本目標5 人口減少に対応した地域をつくる

- ① コンパクトなまちづくり
- ② 交通ネットワークの充実
- ③ 総合的・戦略的な公共施設の整備
- ④ 空家等対策の推進
- ⑤ 東北海道の中核都市としての拠点性の向上
- ⑥ 定住自立圏等の取組の推進

各分野における対策